

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行  
第5回フォーラム研究会  
議事録

日時：平成25年7月12日（金） 13：00～16：20

場所：東京大学工学部12号館2階会議室

出席者：15名（順不同・敬称略）

木村(PONPO)、足立(元気ネット)、植木(元気ネット)、円満字(PONPO)、大石(PONPO)、  
神崎(PONPO)、久保(PONPO)、鬼沢(元気ネット)、渋谷(元気ネット)、  
崎田(元気ネット)、竹中(PONPO)、中岡(元気ネット)、丸山(PONPO)、諸葛(PONPO)、  
土田(関西大)(社会調査グループ)

配布資料

- F5-0. 議事次第
- F5-1. 第4回フォーラム研究会議事録案
- F5-2. 反省会メモ（第4回フォーラム終了後）
- F5-3. 第4回フォーラム時間配分結果
- F5-4. 第4回フォーラムに関するアンケート（自由回答）
- F5-5. 第5回フォーラムスケジュール表
- F5-6. フォーラム終了時のアンケート案
- F5-7. フォーラムインタビューご協力をお願い
- F5-8. シンポジウム案
- F5-9. 第5回フォーラムに関するアンケート

議題

- 0. 議事録確認
- 1. 第4回フォーラムの反省
- 2. 第5回フォーラムについて
- 3. フォーラム終了時のアンケート等について
- 4. フォーラム終了後インタビューについて
- 5. シンポジウムについて
- 6. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

#### 0. 議事録確認（配布資料 F5-1）

木村氏より、資料 F5-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

#### 1. 第4回フォーラムの反省（配布資料 F5-2、F5-3、F5-4）

第4回フォーラムの反省点について、特にアンケートを基に議論が行われた。

- ・ アンケートに、「境界を感じた」との意見があった。  
→第4回まで来て、境界を認識できる段階まで至ったのだと思う。  
→学会員参加者の中には、知識を充足すれば不安は解消されると思っている人もいるのではないか。だからこそ、説明を重ねているのに首都圏参加者が（漠然とした）不安を抱えているのを見て、「境界を感じた」のではないか。→知識充足で不安が解消されるわけではないことに気づくことが大切。
- ・ 第4回まで来て、様々なご意見が出てくるようになってきた。やはり、次年度も5回実施するべき。

#### 2. 第5回フォーラムについて（配布資料 F5-5）

木村氏より、資料 F5-5 に基づき、第5回フォーラムの内容が説明された。議論された内容を以下に示す。

- ・ 最後の「特に言っておきたいことの発表」は、1人1分にして、第5回で感じたことと、5回を通して感じたことの両方を発表してもらおう。（グループワーク1、2のそれぞれ5分の余裕を無くし、10分間を捻出する）
- ・ 前回はアンケート記入時間を長めに取った（7、8分）。その分内容が充実したと思うので、アンケート記入時間はしっかり取るべき。

### 3. フォーラム終了時のアンケート等について（配布資料 F5-6）

土田氏より、資料 F5-6 に基づき、フォーラム終了時のアンケート案が説明された。

- Q33 の「説得」とは、「今、この人は私を説得しようとしているな」と思った、ということを知りたいのか。それとも、「この人の言うことはその通りだな」と説得された、ということを知りたいのか。
  - 前者のほうが興味深い。「他の参加者が、自分を説得しようとしていると感じたことがありますか」と聞く。
  - 後者は Q32 で測ることができる。
- 「一般市民」「一般の人たち」「一般の人々」等、語句が混在しているので、統一すべきでは。
  - フォーラム参加者を指す場合は「一般市民」とする。その他は、「一般の人びと」に統一する。（ただし、Q19 は「人たち」でないと意味が通じないので「人たち」のまま）
- Q25～28 は、フォーラム参加者だけでなく、広く「一般の人びと」、「原子力専門家」を対象にしていることが分かるようにすべき。
  - 文章中に織り込むと長くなる。（フォーラム参加者に限りません） などと後書きをつけるのが無難か。
  - 丁寧に調べるなら、「フォーラムに参加した一般市民」と、「フォーラムに参加していない一般の人びと」に分けて聞くべき。一方、すでにボリュームが多い（16 ページ）という問題もある。
- 「原子カムラ」という単語は、全て鍵カッコをつける。
- フォーラムに参加した原子力専門家に、「自分は原子カムラの一員だと思うか」「世間から原子カムラの一員だと思われていると思うか」ということは、はっきり聞いていない。聞いてみてはどうか。
  - 原子力専門家に対して、質問を設置する。
- 市民の情報源はどこなのか、専門家はどんな情報を基に自信たっぷりに話しているのかが気になる。
  - 聞くことは可能。しかし、本格的に扱おうとすると、かなり大きな研究題材になる。
  - 他の調査結果では、市民はマスメディアからの情報取得が多く、専門家はマスメディアからはほとんど取っていない。専門家は、マスメディアの情報は信憑性が低いと思っているのではないか。（それがムラを形作る一因かもしれない）
- Q34 は「他の参加者からの気づき」を知っているが、「フォーラムに参加したこと自体」で気づきがあった方もいたのではないか。
  - 「フォーラムに参加して、新たな発見をしたと思ったことがありますか」とし、「他の参加者から」という単語を抜く。サブクエスションは「それはどのようなことで

得られましたか」とし、「一般市民と話をして」「原子力専門家と話をして」「このフォーラムに参加したこと自体で」という選択肢にする。

- ・ フォーラムでは、「共感」は2種類あると話しているので、Q32で「共感」という単語を使うべきではない。→「同意」または「同意・納得」に変更。
- ・ 相手の話を聞く、尊重することについても聞いてはどうか。→「他の人の意見を尊重することができましたか」という問いを追加。場所はQ30の後が候補。
- ・ Q19の「原子力の政治家」という選択肢は曖昧。→「原子力を推進している政治家」に変更。

以上の指摘を基に、土田氏により修正、確定されることになった。

#### 4. フォーラム終了後インタビューについて（配布資料 F5-7）

木村氏より、資料 F5-7 に基づき、フォーラム終了時インタビューの概要が説明された。

日程調整表は、原則当日に直接回収することになった。当日に記入できない方については、メールもしくはファクスで送ってもらう（事務局が対応する）。迅速に回収し、迅速に日程を伝えることを心がける。

インタビューガイドについては、以下の意見を踏まえ、木村氏、竹中氏を中心に検討・決定することになった。

- ・ 原子力やエネルギー全般に関する情報をどこから取っているか、などを聞いてはどうか。
- ・ アンケートと似た質問に見える方も多いと思う。「似た質問ですが、じっくりお聞きしたいので」など、断り書きを入れてはどうか。

#### 5. シンポジウムについて（配布資料 F5-8、F5-9）

木村氏より、資料 F5-8 に基づき、シンポジウムの計画が説明された。

主に、フォーラム参加者を登壇させるか否か、また、その人数、選定方法について議論が展開され、以下のように決定された。

##### 【参加者に関して】

- ・ 原則首都圏参加者2名、原子力学会員参加者2名に参加していただく。（後述の選定方法に従って選定。場合によっては減る可能性あり。）
- ・ 前半では、1人5分程度話していただく。首都圏参加者、原子力学会員参加者の代表意見ではなく、その個人の意見であることは運営側が念を押す。
- ・ 「第5回フォーラムに関するアンケート」に、「シンポジウムで話してほしいこと」の

欄を設け、首都圏参加者、原子力学会員参加者の発表の後、司会者がそれを読み上げる。

- ・ 後半のパネルディスカッションにも登壇していただく。話題は木村氏が交通整理し、参加者の生の声が重要だと思われる質問に関しては、参加者に話してもらう。
- ・ マスメディアが参加者個人と接触しないよう、注意する。

#### 【選定に関して】

- ・ シンポジウムに登壇される方には謝金が出ることをアナウンスする。
- ・ 参加者に第5回フォーラム終了時に投票してもらうが、その場では決めず、後で別途交渉する。
- ・ 首都圏参加者、原子力学会員参加者それぞれ2名を挙げてもらう（自薦・他薦問わず）。
- ・ 投票とは別に、「参加できるかどうか」に記名で答えてもらう。（得票が多くても、参加できないと答えた方には交渉しない）

#### 【その他】

- ・ フォーラム実施状況の紹介は、竹中氏より30分間（参与観察の視点から）、元気ネット代表者から10分間（サブファシリテーターの視点から）、話すことになった。
- ・ 講演に対して、質問用紙に質問を書いてもらう。それを回収し、休憩中に分類し、パネルディスカッションで担当の者が回答する。（時間が余れば、会場から直接の質問も受け付ける）

#### 6. その他

- ・ 第5回フォーラムは、従来通り11時集合であることが告知された。
- ・ 第6回フォーラム研究会を8月に開催予定であることが告知された。日程調整後、木村氏より連絡されることとなった。

以上